

平成23年度全国水産試験場長会全国大会(宮崎)

要 録



大会会場（宮崎市民プラザ）



宮崎県庁

期 日 平成23年11月24日(木)

会 場 宮崎市市民プラザ大会議室

〒880-0001 宮崎市橘通西1丁目1番2号

TEL 0985-24-1008 <http://www.siminplza.com>

主 催 全国水産試験場長会

目 次

1	大会の構成	
1)	大会日程	1
2)	大会次第	2
3)	出席者名簿	3
2	挨拶	
1)	会長	5
2)	来賓	6
3)	開催県	9
3	報告（増田会長）	
1)	新しい体制について	11
2)	平成23年度活動について	11
3)	国への要望「地域の抱える懸案事項」等について	12
4	情報交換	
1)	東日本大震災の水産試験研究への影響	
	〔全体報告〕	19
	〔各県報告〕	
	青森県	25
	宮城県	28
	福島県	38
	茨城県	42
	〔関係質疑〕	47
5	話題提供	
1)	宮崎県の水産試験研究の現状	48
6	優秀研究業績全国水産試験場長会会長賞表彰	
1)	審査委員長経過報告・講評	55
2)	会長賞表彰式	56
3)	会長賞受賞記念講演	
	宮城県	57
	長崎県	64
	山梨県	70
	〔関係質疑〕	76
7	現地意見交換会	77
8	関係写真	78

- 1 大会の構成
 - 1) 大会日程

平成23年度全国水産試験場長会全国大会（宮崎）日程

大会行事	開催日時・開催場所
全国大会	平成23年11月24日(木) 13:00～17:00 宮崎市民プラザ4階大会議室
現地意見交換会	平成23年11月25日(金)
本場(青島)コース	25日(金) 午前中 (9:00～12:00) 宮崎県水産試験場（宮崎市青島）
本場・小林分場コース	25日(金) 終 日 (9:00～16:00) 宮崎県水産試験場（宮崎市青島）及び 宮崎県水産試験場小林分場（小林市出之山）

2) 大会次第

平成23年度全国水産試験場長会全国大会(宮崎)次第

開催日時：平成23年11月24日(木)13:00～17:00

開催場所：宮崎市民プラザ4階大会議室

1 開 会

2 挨拶

- 1) 会 長
- 2) 来 賓
- 3) 開催県

3 報 告

- 1) 新しい体制について
- 2) 平成23年度活動について
- 3) 国への要望「地域の抱える懸案事項」等について

4 情報交換

- 1) 東日本大震災の水産試験研究への影響

5 話題提供

- 1) 宮崎県の水産試験研究の現状

6 優秀研究業績全国水産試験場長会会長賞表彰式

- 1) 審査委員長経過報告・講評
- 2) 会長賞表彰式
- 3) 会長賞受賞記念講演

7 閉 会

3) 出席者名簿

平成23年全国水産試験場長会全国大会（宮崎）出席者名簿

平成23.11.24 於：宮崎市民プラザ 大会議室

来 賓

	機関名	役職名	氏 名
国等関係機関	水産庁 増殖推進部	部 長	木 實 谷 浩 史
	水産庁 増殖推進部 研究指導課	係 長	鉢 嶺 朗
	(独)水産総合研究センター	(研究開発推進担当) 理 事	井 上 潔
	(独)水産総合研究センター研究推進部研究支援課	課 長	小 池 幹 人
	(社)全国豊かな海づくり推進協会	顧 問	澁 川 弘
	(社)漁業情報サービスセンター	専務理事	為 石 日 出 生
	全国養鯉振興協議会	専務理事	佐 藤 稔
	全日本錦鯉振興会	九州地区長	尾 形 学
	(財)全国水産技術者協会	理事長	原 武 史
	宮崎県農政水産部	部 長	岡 村 巖
	宮崎県漁業協同組合連合会	指導部長	岩 佐 徳 生

海 面

北海道	(地独)北海道立総合研究機構 水産研究本部	本部長	鳥 澤 雅
	(地独)北海道立総合研究機構 釧路水産試験場	場 長	北 山 進 一
	(地独)北海道立総合研究機構 稚内水産試験場	場 長	吉 田 英 雄
東北	(地独)青森県産業技術センター 水産総合研究所	所 長	松 宮 隆 志
	(地独)青森県産業技術センター 食品総合研究所	所 長	山 日 達 道
	宮城県水産技術総合センター 気仙沼水産試験場	場 長	酒 井 敬 一
	福島県水産試験場	場 長	五 十 嵐 敏
	茨城県水産試験場	場 長	鈴 木 正 伸
北部日本海	秋田県農林水産技術センター 水産振興センター	所 長	工 藤 裕 紀
	新潟県水産海洋研究所	所 長	大 塚 修
	富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	所 長	佐 藤 建 明
東海	千葉県水産総合研究センター	センター長	山 本 研 逸
	東京都島しょ農林水産総合センター	振興企画室長	青 木 雄 二
	神奈川県水産技術センター	所 長	米 山 健
	静岡県水産技術研究所	研究総括監	津 久 井 文 夫
	愛知県水産試験場	場 長	船 越 茂 雄
	三重県水産研究所	所 長	紀 平 正 人
	和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場	場 長	木 村 創
瀬戸内海	大阪府環境農林水産総合研究所 水産研究部	部 長	辻 野 耕 實
	兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター	所 長	反 田 實
	岡山県農林水産総合センター 水産研究所	室 長	萱 野 泰 久
	広島県立総合技術研究所 水産海洋技術センター	センター長	加 藤 友 久
	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究所	所 長	團 昭 紀
	香川県水産試験場	場 長	井 口 政 紀
	愛媛県農林水産研究所水産研究センター	センター長	佐 伯 康 明
	高知県水産試験場	場 長	松 村 春 樹
西部日本海	福井県水産試験場	場 長	安 達 辰 典
	京都府農林水産技術センター 海洋センター	所 長	中 津 川 俊 雄
	鳥取県水産試験場	場 長	増 田 紳 哉
	島根県水産技術センター	所 長	北 沢 博 夫
	山口県水産研究センター	所 長	仲 野 武 二

海面(続き)

	機関名	役職名	氏 名
九州・山口	福岡県水産海洋技術センター	所 長	富 重 信 一
	福岡県水産海洋技術センター 豊前海研究所	所 長	石 田 祐 幸
	佐賀県玄海水産振興センター	所 長	伊 藤 史 郎
	長崎県総合水産試験場	場 長	田 添 伸
	長崎県総合水産試験場	漁業資源部栽培漁業科長	松 村 靖 治
	熊本県水産研究センター	所 長	南 本 健 成
	大分県農林水産研究指導センター 水産研究部	部 長	壽 久 文
	鹿児島県水産技術開発センター	所 長	佐 野 悦 郎
	沖縄県水産海洋研究センター	所 長	勝 俣 亜 生

内水面

東北・北海道	(地独)北海道立総合研究機構 さけます・内水面水産試験場	場 長	永 田 光 博
	(地独)青森県産業技術センター 内水面研究所	所 長	山 口 伸 治
関東・甲信越	神奈川県水産技術センター 内水面試験場	場 長	安 藤 隆
	山梨県水産技術センター	所 長	三 井 潔
	山梨県水産技術センター	研究員	坪 井 潤 一
	長野県水産試験場	場 長	細 江 昭
東海・北陸	岐阜県河川環境研究所	所 長	佐 伯 秀 紀
近畿・中国四国	滋賀県水産試験場	場 長	藤 岡 康 弘
	高知県内水面漁業センター	所 長	小 松 章 博
九州・山口	福岡県水産海洋技術センター 内水面研究所	所 長	西 川 仁
	大分県農林水産研究指導センター 水産研究部	グループ長	岩 本 郁 生
	浅海・内水面グループ		

開催事務局他

開催 関係	宮崎県農政水産部	次長(水産担当)	那 須 司
	宮崎県農政水産部水産政策課	主 幹	西 府 俊 也
	宮崎県農政水産部水産振興課	技 師	古 川 三 記 子
	宮崎県水産試験場	場 長	山 田 卓 郎
	宮崎県水産試験場	副場長	藤 原 一 也
	宮崎県水産試験場	副場長兼研究企画主幹	田 原 健
	宮崎県水産試験場	資源部長	林 田 秀 一
	宮崎県水産試験場	増殖部長	杉 田 浩
	宮崎県水産試験場	生物利用部長	寺 山 誠 人
	宮崎県水産試験場	小林分場長	毛 良 明 夫
	宮崎県水産試験場	主任主事	原 田 弘 子
	宮崎県水産試験場	主任主事	平 田 コ ミ 子
	宮崎県水産試験場	主任技師	市 原 肇
	宮崎県水産試験場	主任技師	南 隆 之
	宮崎県水産試験場	技 師	甲 斐 史 文

2 挨拶

1) 会長

あいさつ

全国水産試験場長会

会長（鳥取県水産試験場長）増田 紳哉

会長を仰せつかっております鳥取水試の増田でございます。

会員の皆様方には師走を前にお忙しい中、第1回全国水産試験場会大会にご出席いただき有り難うございます。又、公務多様中にも関わらず水産庁からは木實谷増殖推進部長様、水産総合研究センターからは井上理事様、開催県の宮崎県からは岡村農政水産部長様、その他多数のご来賓の皆様方のご臨席をいただき厚く御礼申し上げます。

新しく生まれ変わった全国水産試験場長会の主要な活動の一つである大会を、本日無事に開催することができましたことは、会員及び構成員の皆様方のご支援・ご協力のたわものであり感謝申し上げますと共に、場長会の組織改革に携わった者として感慨深いものがございます。

本年は年末年始の山陰の大豪雪に始まり、3月の東北沖大震災、8月の新潟福島の大洪水、さらに9月の台風12号による紀伊半島を中心とした大雨など、これまで現代日本人が経験しなかった未曾有の大災害に相次いで見舞われ大変な年となりました。

我々の仲間も東北沖大震災により尊い命を奪われました、改めて災害によりお亡くなりなられ、被害を受けられた方々に、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

10月30日に「作ろうよみんなが笑顔になれる海。がんばろう日本。災害からの復興」をテーマに、第31回全国豊かな海づくり大会が鳥取県で開催されました。開催県を代表して鳥取県知事が「今こそ国民が手を携えて、母なる海、自然との共生を果たし、水産業の復興、この国の発展のため、立ち上がる時」との主旨のメッセージを発しています。全国水産試験場長会も発足以来60年弱の歴史があり、その間種々の活動を行い、幅広いネットワークも構築して来ました。我々場長会も全国各地を網羅するネットワークをフルに活用し、また水産庁や水産総合研究センターを始め関係機関との連携を密にし、持てる力を発揮して、災害の復興や水産業の発達に最大限努力を行い、全国水産試験場会の責務をしっかりと果たさなければならないと改めて痛感する次第です。

本日の議題の中にも被災させた東北ブロックの現状と今後の課題についてご報告を受けることになっており、しっかりと情報を共有し、今後の対応についてしっかり考えて行きたいと思います。

短く限られた時間の中で盛りだくさんの議題があり、消化不足の感も否めない部分もありますが、皆様方のご協力により有意義なものとし、次回に繋げる記念すべき大会となるようにして行きましょう。

最後になりましたが、本大会の開催に当たり地元宮崎県水産試験場の方々を始め関係の皆様方には大変お世話になりました。心から御礼申し上げます。有り難うございました。

2) 来 賓

あいさつ

水産庁

増殖推進部長 木實谷 浩史

平成23年度全国水産試験場長会全国大会の開催おめでとうございます。

本日御出席の皆様におかれましては、水産業の振興を図るため、日頃より水産研究及び技術開発の推進に御尽力をいただき、この場をお借りいたしまして、改めてお礼申し上げます。

まず始めに、3月11日に発生した東日本大震災で被災された県の方々に対しまして、この場をお借りして、衷心よりお見舞い申し上げます。

今回の震災による水産関係の被害は前例のない規模であり、水産庁としても水産復興マスタープランを策定し、早期に復旧・復興を行うために補正予算を措置するとともに24年度予算においても要求しているところです。

特に貴会よりご要望のあった被災した水産試験研究機関の早期整備につきましては、(現在、国会で審議されている)第3次補正で内閣府が創設する「東日本大震災復興交付金」のメニューの一つとして、「農林水産試験研究機関緊急整備事業」が対象となっておりますので、ご活用下さい。

東京電力福島第一原発の事故による放射性物質の放出等により、複数の水産物から暫定規制値を超える放射性物質が検出されており、政府による出荷・摂取制限や県・漁業団体による操業自粛等が行われているところです。

今後とも都道府県等と連携して放射性物質の調査を強化し、正確な情報提供に努めていく方針です。

水産業・漁村については、今回の震災からの復興を含め、依然として早急に解決すべき課題が山積しております。

そのような中、都道府県の水産試験場の皆様には、我が国水産業を活力あるものにするための調査研究、技術開発に大きな期待が寄せられています。

今後、水産現場からの研究ニーズに対して、迅速・的確に対応することが求められておりますことから、水産庁としては、今後も引き続きニーズの把握と予算への反映に努力して参ります。

最後に、厳しい財政状況の下、研究・技術開発についても、その必要性や成果がより一層問われることとなります。このような状況に対応するためにも、水産関係の試験研究・技術開発の重要性を各方面にアピールし、理解を求めていくことが必要です。このような努力をこれまで以上に行いながら、各機関が共通の認識を深め、一丸となって研究開発に取り組むことが重要と考えております。

今後とも貴会の発展を祈念いたしまして挨拶いたします。

あいさつ

独立行政法人 水産総合研究センター
理事(研究開発推進担当) 井上 潔

水産総合研究センター理事の井上でございます。

本日は、全国水産試験場長会全国大会にお招きいただき、ありがとうございます。

大会の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

我が国は、今、かつて経験したことがない災害に直面し、復興に向けた取組みを進めているところであります。

ここ宮崎県でも昨年来、口蹄疫の発生や新燃岳の噴火など、一連の災害で多くの県民の方々が大変なご苦勞をされておられますが、3月に起きました東北地方太平洋沖地震、これに伴う大津波、原子力発電所の事故、また、その後も豪雨による被害など、今年は全国で立て続けに災害が発生し、水産業も甚大な被害を被っております。

この場をかりまして、改めて、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害を受けられた皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

全国水産試験場長会の皆様方の中にも、施設や調査船が被災し、今なお、厳しい環境の中で復興のための研究開発に取り組まれている方々もおられます。

当センターも岩手県宮古市に置いていた施設が全壊したのをはじめ、被害を被りましたが、幸い人的被害はなかったことから、震災後、直ちに対策本部を立ち上げ、被災した各県に対し、水産の調査研究面で、できる限りの支援を行ってきているところです。

復興の過程では、乗り越えなければならない、いくつもの課題があると思いますが、今後も水産庁、水産試験場、水産業者の皆様と密接な連携を図りながら最大限の努力をしてまいり所存です。

さて、言うまでもなく、我が国は四方を海に囲まれ、古来より水産物を貴重な食料として利用してきており、全国津々浦々で海域特性に応じた様々な漁業、水産加工業が発展し、多様な水産物が世界に誇る豊かな食文化を支えています。

まさに水産業は国民生活と共にある産業であると言え、地域社会を支えるためにも、また、国の食料戦略上も、水産業の健全な発展を図ることが極めて重要ですが、その基盤となる技術の開発や海洋環境のモニタリング、水産資源の調査、水産物の安全確保など、地域の実態に応じた研究開発を精力的に行ってこられたのが、全国水産試験場長会、そして本日お集まりの水産試験場の皆様方です。

昨今の経済情勢等を反映し、各水産試験場においても予算や組織の削減が進み、水産研究に不可欠な調査船の維持、更新にもご苦勞される厳しい状況とお聞きしておりますが、我が国の水産業が置かれている現状を踏まえれば、行政、産業界、研究機関の連携により、水産業発展の礎となる研究開発を力強く進め、実際の水産業の現場で役立つ、目に見える成果を着実に積み重ねていくこと

が、今こそ重要であると考えております。

ここで、恐縮ながら私どものことについて申し上げさせていただきますが、当センターは、4月から新しく5年間の中期計画をスタートさせております。

新たな計画では、独立行政法人として、主要な事務及び事業については真に担うべきものに特化し、業務運営の効率性、自律性、質の向上を図り、国の財政支出の縮減にもつながるよう努めることとしており、水産施策上、必要不可欠な研究開発に重点化するとともに、研究開発を効果的・効率的に進めるべく、さけますセンター及び栽培漁業センターと水産研究所との組織の一元化、また、業務内容が国際対応へシフトしてきている遠洋水産研究所を、業務内容を的確に示すため国際水産資源研究所へ名称変更したところであります。

新しい計画、体制の下で、引き続き政府の方針に基づき、業務の合理化、効率化を進めつつ、今後も、水産試験場の皆様との密接な連携と適切な役割分担を図り、水産政策等に対応した研究開発を着実に進め、震災復興はもとより、水産業に明るい希望を与えることができる成果を一つでも多く積み上げていきたいと考えております。

終わりに、本日の全国大会が、水産業・水産研究開発への理解を深める契機となるとともに、関係者の皆様方の絆をより強め、水産業の復興・発展に向けた研究開発の一層の推進に繋がっていくことを祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

3) 開催県

あ い さ つ

宮崎県

農政水産部長 岡 村 巖

本日、全国各地から大勢の皆様をお迎えして、記念すべき第1回全国大会が盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、御来県の皆様を心から歓迎いたします。

また、東日本大震災で大きな被害を被られた東北をはじめとする関係県の皆様に、心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、今年5月に公表された”水産白書”によりますと、水産をめぐる世界の情勢について、海洋水産資源が悪化する一方、世界人口の増加等に伴う水産物需要の増加が予測されていることから、我が国周辺水域の水産資源の適切な管理を推進し、国民への水産物の安定供給を確保することが、我が国の食料戦略上の重要な課題となっております。これらを解決するために、国におかれましては、平成23年度から資源管理・所得補償対策をはじめとする各種施策に取り組まれております。

本県におきましても、資源の回復と経営力の強化による持続可能な水産業・漁村の構築を目指して、各種施策に取り組んでおりますが、御承知のとおり、近年の水産業を取り巻く環境は、漁業就業者の高齢化や担い手の減少に加え、燃油高騰等、大変厳しい状況でございます。

さらに、先の大震災による原発事故に伴って、水産物の輸出への影響をはじめとして、国内外での風評被害の広がりが懸念されているところであります。

本日の大会は、全国の水産試験研究機関の所属長の方々がお集まりであり、その中では、優秀な研究業績に対する全国水産試験場長会・会長表彰などが行われると聞いております。

これから日本が直面する人口減少社会・超高齢社会の中で、どう水産業を産業として維持していくのか等、試験研究機関にはこの閉塞状況を打ち破るような技術革新（イノベーション）が期待されるわけですが、本日の大会が、その一助となり、全国における水産業の振興、発展に寄与するものとなることはもちろん、本県の水産業振興の取り組みを促進する上でも、大きな弾みになることを期待しております。

明日は、現地での意見交換会も予定されておりますが、皆様方には、ぜひともこの機会に、秋の日向路を存分に味わっていただき、さらに地元に戻られて周りの皆様方にも宣伝していただければと存じます。

終わりに、本日の大会が水産業の抱える問題解決の契機となり、水産業のさらなる発展にとって実り多いものとなると同時に、本日、お集まりの皆様の御活躍と御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

